



引き出し用の除湿剤は 上に置く・下に敷く、どっちなの? 除湿剤 Part 2

衣類を保管しているタンスの引き出しや衣装ケースの中は、空気の流れがないため、湿気がこもりやすくなります。湿気対策として、除湿剤や除湿シートを使用することはとても効果的なことです。ただし、正しく使用しないと、大きなトラブルが発生する可能性があります。当センターに寄せられた相談事例から、事故の原因と除湿剤の種類の違いによる正しい使い方を整理してみましょう。



【相談事例】桐のトレーに2枚ずつ着物を入れて保管している。ホームセンターで購入したPBブランドの除湿剤をトレーの上下に置き、布で着物と接しないようにして保管していた。除湿剤を入れて2か月程度だが、除湿剤の中に溜まった水分が染み出して、着物とトレーが変色している。購入したホームセンターの店員が状況を見に来たが、補償できないとただで、原因など何も教えてくれなかった。除湿剤は1つずつ袋に包まれ、「この面を上にして使う」としか書かれていなかった。変色した着物の回復方法をクリーニング店で相談したが、回復は難しいと言われている。

●この事例は、何が問題だったのでしょうか。「この面を上にして使う」とは?

今回使用された製品は、塩化カルシウムが主成分の除湿剤でした。塩化カルシウムは水分を吸収すると液体になる性質(潮解性)を持っています¹⁾。個装の一方の面は空気中の水分をシート内に取り込むために微細な穴が開いている吸湿面、反対の面は水分が染み出さないための防水面となっています。面によって役割が異なるため、吸湿面を上にして、衣類の一番上に置くように指定されています。今回の事例では、除湿剤の吸湿面を上に向けて、着物の下に敷いてしまったことが問題でした。

●なぜ、変色した着物が回復できないのでしょうか?

除湿剤に吸湿された液体は、水ではなく、アルカリ性の塩化カルシウムの水溶液です(主成分の他に保水剤が配合されゲル化させています)。そのため、染み出した液が衣類に付着するとシミになることがあり、絹や革製品などアルカリに弱い繊維がシミになった場合には回復ができないケースもあります。

●「この面を上にして使う」は、一般的なのでしょうか?

タンスの引き出しや衣装ケース使用する除湿剤の代表的な成分として、塩化カルシウムの他に二酸化ケイ素を原料としたシリカゲルがあります。シリカゲルは表面に小さな穴があいた多孔質構造

となっていて、物理的作用で水分を抱え込みます。塩化カルシウムの除湿剤は、吸湿面に衣類が触れないように、吸湿面を上にして一番上に置きますが、シリカゲルの除湿剤は、表裏の指定がなく、引き出しや衣装ケースの下に敷くタイプもあります。同じタンスの引き出し用の除湿剤であっても、主成分や形状によって使い方が異なります。また、水分を含んだ湿気は空気よりも重く、下に溜まりやすいため、同じ塩化カルシウムの除湿剤であっても、クローゼットなどの空間に使用するタンクタイプの除湿剤は、下に置くのが効果的とされています。

●今回のような事故を起こさないために

事故を起こさないためには、製品の使い方、注意表示を確認して正しい使い方をすることはいうまでもありません。今回の事例は、衣類の下に置いて使ったことから、消費者の誤使用に起因する事故ということになります。ただし、この除湿剤には「この面を上にして使う」と記載はあっても、「衣類の一番上に置く」との表示はなかったようです。

また、除湿剤には、成分や形状によって、上に置くもの・下に敷くものと正反対の使い方がありますが、成分や形状の記載はなく「除湿剤は下に置くと効果的」と情報発信されているサイトもあります。これを見ると、一般的な除湿剤の使い方は、下に置くものと思ってしまうでしょう。

製造物責任（P L）法では、事故を防止・回避するために適切な情報を製造者が与えていなかった場合、指示・警告上の欠陥となります。P L法には注意表示に関する規定はありませんが、予見可能な誤使用なども考慮して、事故防止のためのより丁寧な注意表示をすることが望ましいと思われま²⁾す。

消費者としては、タンスの引き出し用や衣装ケース用の除湿剤を使うときは、次のことを覚えておきましょう。

◆除湿剤は成分によって置く場所が違う

シリカゲルは下に敷くことができるが、塩化カルシウムは下に置くと大きなトラブルになる可能性がある

製品の使い方、注意表示を確認して正しい使い方をすることは全製品共通です。

【参考にした情報】

1) 化学製品P L相談センター ちょっと注目『除湿剤でたまった液は水じゃない』

<https://www2.nikkakyo.org/system/files/chumoku335.pdf>

2) [製造物責任法の概要 Q&A | 消費者庁](#)